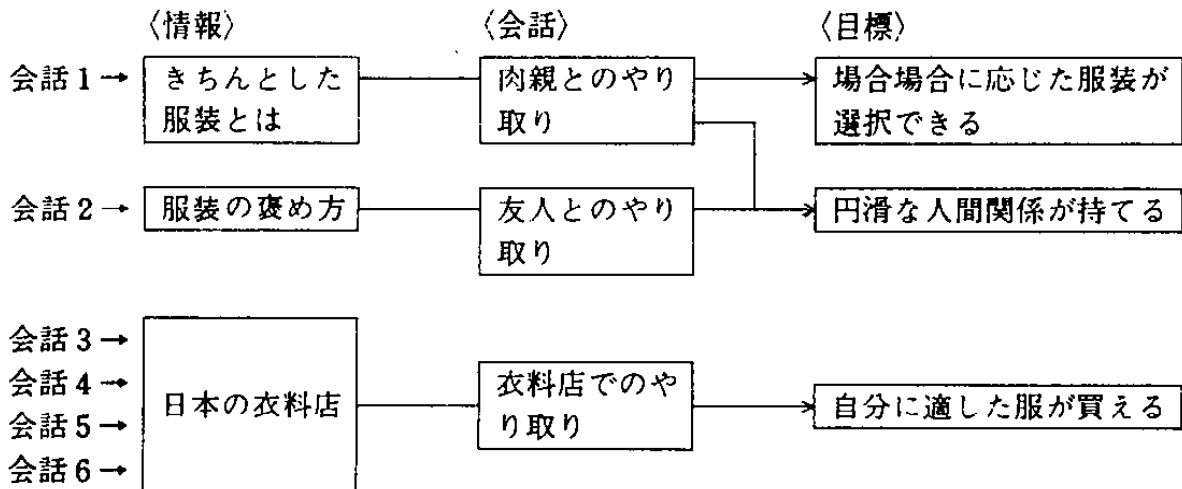


第7課 服 装

● この課の目標と重点

- ① 面接・葬式・結婚式などに臨むときそれぞれの場合に応じて、その場に適した服装の選択ができる。
- ② 日本の衣料店で自分に合った衣料を買い求めることができる。
- ③ 服装について、周りの人に助言を求めることができる。

● この課の構成と各会話の関連



〔会話－1〕 服装の点検

行動達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> ① 会社の面接といったような場合に、その場に適した服装の選択ができる。 ② 家庭内で日本の肉親に助言を求め、円滑な人間関係が保てる。 	
知識	日本社会では、どのような場合にどのような服装をすべきであるかということについて知っておく。
表	<p>① 項目ごとに準備の有無を点検す → (スーツ) は (クリーニングし) である表現ができる。</p> <p style="margin-left: 150px;">ね。</p> <p style="margin-left: 150px;">ええ、大丈夫です。</p> <p style="margin-left: 150px;">(ワイシャツ) は？</p> <p style="margin-left: 150px;">ええ、(ちゃんとアイロンをかけ) であります。</p>

現

② 助言を求める表現ができる。 → (ネクタイ) は (これ) でいいかなあ。
 (お母さん)、どうですか。
 (ネクタイ) は (これ) でいいでしょうか。
 (ちょっと地味) じゃありませんか。

● 指導の前に

〔会話－1〕では会社の面接に行くための服装の準備をしている場面が取り上げられている。日本で育った人であるなら、面接に行くのにはスーツにネクタイといった服装が思い浮かぶであろうが、中国で育った人はどうであろうか。多くの帰国者にとってスーツにネクタイといった服装は身近なものではないだろう。言葉の上では同じ「ちゃんとした服装」であっても日本と中国ではその内容が異なる。面接のような大切な場面では帰国者のこのことに対する理解不足が重大な不利ともなりかねない。また、葬式・結婚式などにおいても同様のことが言えるであろう。

日本の社会で、どういう場合にどのような服装をするのかということは重要な知識である。ここではその知識自体とその知識を得る手段（質問したり、助言を求めたりすること）の両方を指導する。

また、就職に関して中国では転職等以外、面接を行わないこともあるので、学習者は日本での就職のプロセスを知っておく必要がある。就職後も中国では仕事上必要な衣類、高級デパートなどではパーマや化粧の費用までも支給されるので、身だしなみに関して、日本では何をどこまでどのように自分でしなければならないか、学習者に知らせる必要がある。

日本社会と中国社会で、習慣、考え方が違うことから生じるトラブルを防ぐために、周囲の者と協調的な関係を持つことが重要である。そのためには、積極的に自分から助言を求めることも大切である。ここでは、周囲と協調する姿勢が必要であることを理解するとともに、服装を話題にして助言の求め方を学ぶ。

● 準備

- ① 学習者にワンピース・ブラウスなどの衣類の名称、チェック・縞等の模様、地味・派手・明るい・暗い等色合いおよび色の言い方等、服装の関連語彙でよく使われるものをまとめて、中国語訳も付けて渡し、予習させておく。

- ② 面接・葬式・結婚式などにふさわしい、あるいはふさわしくない衣類を用意しておく。
または、それに代わるもの（絵・写真・カタログ等）を用意しておく。

● 授業

【1】導入

① 特別な場合の服装について話し合う

「ちゃんとした服装」とはどんなものか、どんな種類の服があるのか、どのように着分けるのかということなどを話し合う。

例えば、日本ではどのような服装が「ちゃんとした服装」であるか、それは結婚式の場合も葬式の場合も同じであるのか、どのように違うのか、他の場合はどうであるのか知っていたら話させ、知らないようだったら説明する。中国ではどうであるのか話させるのもいいだろう。また、警察官の制服、銀行員の服装といった職種の違いによる服装の違いも話してみる。

以上のような活動を通じて、日本と中国との違いに注目させ、日本の習慣について理解させる。あわせて、日本において服装に関して、適切な選択ができるように身近な日本人に助言を求めたり、質問したりすることが必要であることを理解させる。

*準備の項で述べた語彙表を利用して、まずは「派手」とか「悪い」など一般的な服装についての話をして、次に場合に応じた服装に触れる。また、余裕があれば服そのものばかりでなく、ボタンをはずさないなどといった程度のことから、服をどう着るかについても触れたい。日本社会では「ちゃんとした服装」とされない姿（ネクタイをベストの上に出す／セーターの裾をズボンの中に入れる／ワイシャツをズボンの外に出す等）の写真を示して、どこが変か話し合ってもよい。

*レベルⅠの学習者に対しては、結婚式・葬式・面接のときの服装や警察官・銀行員の制服などの写真を準備して見せながら、日本ではどのような場合にどのような服装をするのかを理解させる。レベルⅡ、Ⅲの学習者に対しては、写真を準備できれば、話し合いの後、確認に使える。

【2】展開

① 会話場面の内容理解の確認をする

〔会話－1〕のテープを聞かせ、次のような質問をする。

- 例
- ・林さんはどこにいますか。
 - ・林さんのほかにだれがいますか。
 - ・林さんは何をしていますか。

- 林さんはこれからどこへ行きますか。
- 何をしに行きますか。
- 林さんは自分でどのネクタイをするか決めましたか。

② 「今日は、ちゃんとした服装をしなきゃ」のリピート練習をする

教授者がまず言って、そのあとを学習者に繰り返させ、暗記してスムーズに言えるようになるまで行う。

* 文の意味を理解するのに教科書の中国訳等を利用する以外は、教科書を見ないように指示する。

* レベルⅢの学習者以外は練習2-1（教科書P181）はしない。この練習には、「～きゃ」に対応する学習者の生活する地方の言い方を取り入れる。

③ 項目ごとに準備の有無を点検するやり取りを練習する

次のア、イの順で行うとよい。

ア 「～てあります」の文型を以降の練習で使う動詞を用いて、意味を十分理解させ、教授者の後についてリピート練習する。

- 例
- クリーニングしてあります。
 - アイロンをかけてあります。
 - まだしてありません。

* レベルⅢの学習者は、「出す」「置く」なども使って練習する。

イ 教授者は黒板などに準備の有無が分かるように絵をかくなどして、やり取りで練習する。

- 例
- A: スーツはクリーニングしてありますか。
 - B: ええ、大丈夫です。
 - A: ワイシャツは?
 - B: ええ、ちゃんとアイロンをかけてあります。

(レベルⅢの学習者用)

- 子: おべんとうは?
- 母: リュックに入れてあるわ。
- 子: 靴は出してある?
- 母: あ、まだ、ごめん。

*レベルⅢの学習者には、例のように遠足の準備をしている場面を想定するなどして、練習させるのもよい。この場合、弁当や靴に見たてた絵カード等（実物でもいい）をリュックの中に入れて、靴箱の中に入れて、教科書のやり取りを利用して、自由にやり取りさせる。

（レベルⅠの学習者用）

A： スーツは？
B： 大丈夫です。
A： ワイシャツは？
B： 大丈夫です。（まだです。）

*レベルⅠの学習者には場面をよく理解させた上で、このようなやり取りで練習させる。

④ 助言を求める表現を練習する

次のア～エの順で行う。

ア 「ネクタイはこれでいいのかなあ」「ネクタイはこれでいいのでしょうか」を教授者の後についてリピート練習する。

*この表現に相当する、各地方でよく使われる表現に置き換えての練習もさせる。

イ 結婚式や葬式等に行く場合ごとに、「～は～でいいでしょうか」「～は～でいいかな」の文型練習をする。

（親しい級友に向かって）スーツはこれでいいかなあ。

（先生に向かって）スーツはこれでいいのでしょうか。

*「～かなあ」と「～でしょうか」の違いの説明にあまり時間をかけないように。練習では向かって言う相手を替えることによって選択させるようにする。

*レベルⅠの学習者は（スーツを持って）「これでいいですか」と言えればよい。それも難しいようなら、「いいですか」だけでよい。

ウ 「どうですか」の文型を練習する。「このネクタイ、ちょっと派手だと思うんですが、どうですか」「このスーツ、ちょっと大きいと思うんですが、どうですか」等いろいろ入れ替えて練習させる。

*「～と思うんですが、～」の「が」が「か」でないこと、「か」に近く発音しないよう注意する。

● 指導の前に

〔会話-2〕は友人のネクタイを褒める場面である。中国でも人の衣類や持ち物を褒めるということはあるが、帰国者が日本の生活でも周囲の日本人に積極的に働きかけて、関係を深めていくことは大切なことである。

● 準備

衣類・装身具又はその絵や写真を用意する。

● 授業

【1】導入

① 学習者の服装を褒めるやり取りをする

友人の服などを褒める行為を通して、友人との触れ合いを持つことは大切なことである。学習者の中に褒めるべき服装をしている者がいたら、「いい～ですね」などと褒めてみる。そして、褒められて、どうか感想を聞く等して、楽しく動機付けを行いたい。

*レベル1の学習者に対しては、「いいですね」と教授者が働きかける。

【2】展開

① 会話の内容の理解の確認をする

〔会話-1〕のテープを聞かせ、次のような質問をする。

- 例
- ・ネクタイは高かったですか。
 - ・小川さんはそのネクタイを自分で買いましたか。
 - ・いつも小川さんは自分でネクタイを買いますか。
 - ・どうしてですか。
 - ・ネクタイを選ぶのは難しいですか。

② 「いい～ですね」の文型練習を行う

準備した衣類・装身具を使って「いい～ですね」の文型の発話練習をする。その後、それぞれの学習者にその衣類・装身具を身につけさせて、互いにこの文型を使って褒める練習をする。褒められたら、例のように謙遜するように指示しておく。また、「ありがとう」と素直に喜ぶ場合も練習しておく。

例 A: いい時計ですね。

B: いいえ、そんなことはないですよ。

* 声の調子に注意させる。

* レベルⅠの学習者は、褒める対象を目や手で示しながら、「いいですね」で練習する。

* レベルⅢの学習者には謙そんの言葉に「安物ですよ」「もらい物なんです」等も導入する。

③ 褒めた後、更に関心を示す表現を練習する

「ネクタイはいつも自分で買うんですか」を繰り返し練習する。その後、「～は（いつも）どこで買った（う）んですか」「～は（いつも）だれが買った（う）んですか」を発話練習する。

* レベルⅢ学習者は、ほかに時計などの持ち物に対しても、失礼にならないよう、関心を示す表現を練習する。

【3】応用

① 人の持ち物に関心を示す場面のロールプレイをする

珍しい物、便利な道具などを使って、次のようなやり取りで行う。

例 学生： あ、便利なはさみですね。

先生： ええ。

学生： どこで買ったんですか。

先生： 東京のデパートで買ったんですよ。

〔会話－3〕ズボンの丈を直す

行動達成目標	
店でズボンを適当な長さに直してもらうことができる。	
知識	日本の洋品店等のズボンの直しについて知る。
表現	① ズボンの丈の直しを依頼する表現ができる。 → 丈は直してもらえますか。
	② ズボンの丈の長さを適当なものにしてもらう表現ができる。 → ちょっと長くないですか。じゃ、これでいいです。

● 指導の前に

中国の洋品店ではズボンの丈直し等は普通しない。店に並べられたズボンから自分に合ったものを選ぶということになる。直しをすれば自宅でする。

日本でも店や場合によって、丈直しができたり、できなかったり、また手続きの違いなどがあるので、どのような場合にどうなのかを知っておかなければならない。丈直し

をしてもらった場合、普通は代金を先に払って、商品は後日指定された日以降に取りに行くというようなことも学習者に知らせておくといいたい。

● 準備

ズボンの丈を長くしたり、短くしたりできる丈の直してないズボンまたは長めのズボンを用意する。

● 授業

【1】導入

① 衣類の買い方、日本での衣類購入のシステムについて話し合う

日本でズボンを買ったことがあるか聞く。買ったことがある学習者がいたら、どんな店で買ったか、どうやって買ったか聞く。ないようだったら、学習者が買い物するであろう実際にある店を例に挙げ（スーパー、デパートなど種類別に）そこで買う場合、どうやって買うか知っているか聞いたり、説明したりする。

*レベル1の学習者には洋品店やデパート等の洋品売り場の絵や写真を利用する。

【2】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話-3〕のテープを聞かせて、次のような質問をする。

- 例
- ・林さんはどこにいますか。
 - ・林さんは何をしてもらいましたか。
 - ・林さんのズボンは丈を直したとき、丈の長さはどうでしたか。
 - ・どうしてですか。

*レベル1の学習者にはテープの中国語の部分をよく聞かせる。

② 丈直しを依頼する表現「丈は直してもらえますか」をリピート練習する 暗記して、滑らかに言えるまで繰り返し練習をする。

*レベル1の学習者では「丈、お願いします」などと換えて練習してもよい。

③ 「ちょっと長く(短く)ないですか」をリピート練習する

その後、準備したズボンの丈を長めに折ったり、短めに折ったりして、次のようなやり取りで練習する。

例 先生：（ズボンの丈を長めにして／短めにして）このぐらいでよろしいでしょうか。

学生： ちょっと長く（短く）ないですか。

先生：（短くして／長くして）このぐらいでよろしいでしょうか。

学生： ええ、これでいいです。

*レベル1の学習者では「長いです」「短いです」「いいです」等が言えればいい。

【3】総合

① ズボンの丈を直す場面でやり取りをする

教授者が店員、学習者が客になって、用意したズボンを使って練習する。教科書のやり取りを変えたりして、臨機応変に行う。

〔会話－4〕ブラウスを買う（1）

行動達成目標	
一緒に行った人に助言を求めることによって、自分に合った服を選ぶことができる。	
知識	日本の衣料店はどのようになっているか知っておく。
表現	① 自分に合った服を選ぶため、助言を求める表現ができる。 → これはどうですか。 このスカートには合いませんか。 じゃ、こっちの色は？
	② 最後まで言い切らない表現が理解できる。 → でも、ちょっと……。 デザインはすっきりしてて、とてもいいと思うけど……。

● 指導の前に

日本と中国の衣料品店には大きな差異がある。たとえば、日本では衣類を手にとってよく確かめ、試着もできるが、中国では衣類はカウンターの後ろにあるので、自由に手を取ることはできない。よく見たいときは店員に申し出て、取ってもらうことになる。日本では、売り場に行っただけで店員の方から話しかけてくることもあって帰国者は面食らうこともある。また中国では、地方によっては、買った衣類の返品はできないが、日本では買った品物の扱いに気を付け、レシートをとっておくなどすれば、比較的交換

はしやすい。このような「違い」を知っておくことは、日常生活にとって重要なことであらう。

● 準備

- ① 「派手・地味・落ち着いた感じ・けばけばしい・すっきりしている・おとなしい・かわいらしい・やぼったい」など服装に関して形容する語句のリストを中国語訳を付けて渡し、予習しておくように指示する。
- ② 授業中に使用する上記のリストに対応する衣類、またはそれに代わる絵や写真を用意しておく。これはリストの語句の意味を分からせるのに必要な道具であるのでぜひ用意する。

● 授業

【1】導入

- ① 服について感想を述べ合う

用意した服についてどう思うか、リストに挙げた語句を利用して、「派手だ」とか「地味だ」とか感想を出し合う。

【2】展開

- ① 会話場面の内容理解を確認する

[会話-4] のテープを聞かせて、次のような質問をする。

例 ・林夫人はどこにいますか。

・林夫人は何をしていますか。

・林夫人はひとりでブラウスを買っていますか。

- ② 最後まで言い切らない助言の表現を理解する

はじめは、教授者が「ちょっとねえ、派手じゃないかしら」等言い切って練習するが、慣れてきたら「ちょっとねえ……」、「～と思うけど……」と語尾を長く伸ばすなどして、学習者の反応を促す。次のようなやり取りがスムーズにできるよう練習する。

例 学生： (かなり派手な服を持って) これはどうですか。

先生： ちょっとねえ……。

学生： 派手ですか。(少し派手な服を持って) じゃ、これはどうですか。

先生： そうねえ。明るくていいと思うけど……。

学生：　そうですか。（無難な服を持って）これはどうですか。

先生：　その方がいいと思いますよ。

*あらかじめテープに録音しておいたものを聞かせるなどすれば、分かりやすい。

*学習者に教授者の声の調子や表情に注意させる。

③ 「～には合いませんか」を練習する

それぞれの学習者にいろいろ衣料を持たせて、次のようにロールプレイする。

例 学生：　（自分のズボンに当てさせながら）このシャツは合いませんか。

先生：　いいえ、いいですよ。／ちょっとねえ……。

④ 〔会話－４〕の場面に沿った応用会話をロールプレイする

実際の場面に近付けて服などを用意して行いたい。はじめに、〔会話－４〕のテープを聞いてから行ってもよい。

〔会話－５〕ブラウスを買う（２）

行動達成目標	
一緒に行った人に自分の意見を言って相談して、自分に合った服を選ぶことができる。	
表 現	えん曲な表現で自分の意見を言う → （……あの、ちょっと大きい）ような気がするんですけど。 （でも、ちょっと大き過ぎる）んじゃない（かしら）。

● 指導の前に

帰国者にとって日本人のえん曲表現を理解し、自分でもえん曲表現を使うことはかなり難しいことであろう。しかし、えん曲表現は、「日本的表現」と言われることもあるように、日本人の価値観と関係が深い。日本人が日常よく使っているえん曲表現に少しずつ慣れていき、日常の人とのやり取りに生かしていけるよう指導したい。

● 授業

【1】導入

① えん曲表現の具体的な例を示す

日本人の家に招待されたとき、その部屋がクーラーが効きすぎていて「寒い」と言いたいとき、学習者はどうするか聞いてみる。教授者は、そのような場合、学習者が直接的に「部屋が寒い」と言ってしまってはまずいこと、そしてそのような場合には、「すみません。ちょっと冷房を緩めていただけますか」とか「ちょっと、寒いような気がするんですが」とかの言い方があることを教える。

【2】展開

① 会話場面の理解を確認する

〔会話－5〕のテープを聞かせて以下のような質問をする。

- 例
- ・林さんはスカートが大きいと思いましたか。
 - ・林さんのお母さんはどう思いましたか。
 - ・店員は何と言いましたか。
 - ・林さんはスカートが大きいと思って何と言いましたか。

② えん曲表現を練習する

次のア～エの順で行う。

ア 「ちょっと大きいような気がするんですけど」「ちょっと大きすぎるんじゃないかしら」を暗記してスムーズに言えるようになるまで教授者の後についてリピート練習する。

*この練習中は教科書を見ないように指示する。

*学習者が男性の場合、教科書の表現を練習させるばかりでなく、「ちょっと大きすぎるんじゃないかなあ」といったふさわしい言い方を教える。

イ 「ちょっと～ような気がするんですけど」「ちょっと～んじゃないでしょうか」の文型を練習3-1、練習4-1（教科書P194, 195）を利用するなどしてパターン練習をする。

ウ 先生に対してえん曲表現を使って、以下のようなやり取りで練習する。

- 例
- | | |
|-----|--|
| 先生： | 今日は、この服を着て、銀座へ行きます。（夏なら厚い服、冬なら薄い服を見せる） |
| | 学生： 先生、ちょっと暑い（寒い）んじゃないですか。 |
| 先生： | この洗濯物はこのひもを使って干しましょう。（細いひもを見せる） |
| | 学生： ちょっと細いような気がするんですが。 |

エ ウの対話の型に続けて、先生が「大丈夫ですよ」等と自分の意見を主張する。それに対して、さらに学生が自分の意見を言うときの表現「そうですか。でも、ちょっと～すぎるんじゃないでしょうか（ないかしら）」の文型を練習する。

初め、〔会話－1〕のテープなどで、この文（会話番号8）のイントネーションに注意させる。「そうですか」の部分、「でも」の部分、「ちょっと」の部分と、区切りながら聞いて、それをなるべくそっくりにまねさせると、学習者が、よく聞こうとする。

次に、教授者が、同じ文をいろいろなイントネーションで言って、学習者にどう感じるか問う。相手に非難を込めたり、反論したりの口調から、極端に相手をはばかりた言い方まで、顔の表情も変えて言う。これも学習者にまねさせるとよい。そして、この場面では、どの言い方（顔の表情、しぐさも含めて）がよいか決める。

最後に、ウの例などに続けた会話の型でロールプレイをする。

例 先生： いや、大丈夫ですよ。

学生： そうですか。でも、ちょっと細すぎるんじゃないですか。

③ 〔会話－5〕のロールプレイをする

〔会話－5〕のテープを通して聞いて、各文の発話練習をした後、〔会話－5〕を通してロールプレイする。

*この場面は、女性が客だが、男性の場面も考え、テープに録音しておき、男性の学習者にはそれによって練習させるとよい。

*〔会話－5〕は、店員の発話は難しい表現も多いので教授者等が店員役となる。

【3】総合

① 自分の意見を言う場面のロールプレイをする

練習4－1（教科書P195）に沿って、ロールプレイをする。

〔会話－6〕ブラウスを買う（3）

行動達成目標	
求める材質の衣料が買える。	
知識	衣類についている洗濯表示マークが分かる。
表	① 洗濯可能か聞ける。 → これは（うち）で洗えますか。 （洗濯機）で洗っても大丈夫ですか。

現

- ② 洗濯の仕方の説明が分かる。 → 多少色落ちするかもしれませんが、ほかのものと分けて洗った方がよろしいですね。
水かぬるま湯で軽く手洗いなさった方が、型くずれしなくて安全だとも思いますけど……。
そして、やはり色ものですので陰干しなさって……。

● 指導の前に

洗濯については第4課で取り上げられているので、第4課を参照されたい。

● 準備

- ① 洗濯表示がついた衣類を幾つか用意する。
- ② [会話-6]の店員の部分を何通りか変えて録音しておく。

● 授業

【1】導入

- ① 衣服による洗濯法の間答をする

第4課をまだやっていないなら、洗濯表示の見方を教える。

練習1-1(教科書P198)を利用して、動詞の可能形を練習する。

*うまく可能形が作れないようなら、ここで一度に教えようとしないで、毎回の授業で一段動詞、五段動詞、例外動詞と分けて可能形を少しずつ練習する。また、そのとき動詞の辞書形を、同可能形の辞書形に変える(洗う→洗える)練習だけをするのではなく他の形のもの(洗います→洗えますか等)も練習する。

*レベル1の学習者には、よく使うと思われるものを選んで、五段動詞、一段動詞から可能形を作るといった文法的な練習はしなくてもよいので、可能形それぞれを一つ一つ単語として教える。この場合、一度に多く提示しないで、少しを繰り返し練習する。

【2】展開

- ① 会話場面の内容理解の確認をする

[会話-6]のテープを聞かせて質問をする。

- 例
- ・林さんの奥さんは何を聞いていますか。
 - ・何の洗濯の仕方ですか。

- 水で洗いますか。
- どこに干しますか。

② 店員の説明を聞き取る

〔会話一6〕のテープを聞かせて店員は何と言ったか言わせる。

- * 理解しにくいようなら、次に部分部分でテープを止めて内容把握の確認をする。
- * 洗濯表示の読み取りができれば十分なので、聞き取りは教科書の聞き取りだけでよい。

③ 洗濯可能かどうかを聞く

次のア～ウの順で行う。

ア 「これはうちで洗えますか」「洗濯機で洗っても大丈夫ですか」を暗記してスムーズに言えるまでリピート練習する。

イ 「これは～で洗えますか」「～で洗っても大丈夫ですか」の文型の入れ替え練習をする。

- * 「うちで洗えますか」「洗濯機で洗えますか」と入れ替えて練習するが、助詞「で」の意味(場所を示す/道具・手段を示す)は、質問がなければ触れない。

ウ 用意した衣類について洗濯可能かどうか学習者同士で問答をする。

例 学生A: それは洗濯機で洗えますか。

学生B: (洗濯表示を見ながら) 洗えますよ。

【3】応用

① 〔会話一6〕の応用会話の聞き取り練習をする

〔会話一6〕の店員の発話部分を変えて録音したものを聞かせ、内容が理解できているかどうか質問する。また、店員の各発話の内容を自分の言い方で要約させる。

このとき、店員の発話で、分からない部分は、教授者に質問してもよいこととする。ただし、どこが分からないかを示してそこだけ聞き返す言い方(会話番号7などがこの例、詳しくは、第2課〔会話一1〕【3】③P55を参照)で行わせたい。

② 洗濯表示の問答を行う

洗濯表示のついた衣類を幾つか示して、これについて学習者が質問し、教授者が説明をする。